

オスプレイは 厚木基地に来るな！ 沖縄から撤退せよ！



昨年10月、米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイ12機が沖縄・普天間基地に配備された。

沖縄県を含む県下全市町村、41自治体の長、議会は配備拒否の意思を表明、決議をあげ、9月9日には県民大会が開かれ、10万人を超える人々が集まった。「オール沖縄」でオスプレイ拒否との意思を示したのである。しかし、日米両政府はこうした沖縄の総意に耳を傾けず、オスプレイの配備を強行した。

国土のわずか0, 6%の県土に在日米軍基地の74%が集中する沖縄。米軍機による爆音被害や墜落事故、基地汚染、米兵による事件、事故の多発…。過重な基地負担がもたらす県民の命、暮らしへの圧迫、脅威はケタ違いだ。追い打ちをかけるようにオスプレイが配備された。そして、配備の直前直後にも事件が続発した。



オスプレイは米国が20年の歳月をかけ、ヘリコプターと輸送機を合体した“夢の軍用機”。しかし、謳い文句とは裏腹に、試作段階から墜落事故を繰り返している。昨年だけでも、モロッコとフロリダで墜落事故を起こし、死傷者を出した。

エンジンが止まったとき、ヘリコプターなら回転翼が風圧で自動的に回り、揚力を得て危機を回

避できるオートローテーション機能が働くが、オスプレイにその機能がない。だから、エンジンが停止すると一気に墜落してしまう…。構造そのものに無理のある欠陥機なのである。

米国政府は海兵隊のMV22型をあと12機、さらに空軍のCV22型10機程度を向こう2年間で、嘉手納基地に配備する計画を明らかにした。いったい、どこまで沖縄の人々を愚弄するのか…。



そのオスプレイが全国各地に設けられた6つの低空飛行訓練ルートを飛び回ることが計画されている。さらに、訓練飛行の拠点として岩国基地とキャンプ富士が明記されたが、防衛省は厚木基地にも給油、整備、休養を目的に飛来する可能性があることを認めた。

去る12月23日、私たちは厚木基地に向けて『怒りの神奈川行動』に取り組み、こう宣言した。

「私たちはオスプレイの厚木基地への飛来を拒否する。全国各地で行われようとしている低空飛行訓練に反対する。そして、飛来、訓練の基になっている普天間基地からの撤退を求める」と。

沖縄の人々と共に闘うために、山城博治さんを招き、厚木基地のお膝元、大和市で別記要領で集会を行います。ぜひ、ご参加下さい。



山城博治さん プロフィール

1952年、沖縄・具志川市(現うるま市)に生まれる。大学卒業後、沖縄県庁に入庁、26年間在籍し、その間、自治労沖縄県本部副委員長などを務める。また、沖縄平和運動センター事務局長として、数々の反戦平和、反基地運動を牽引する。辺野古新基地建設、東村高江のヘリパッド建設、オスプレイの配備反対運動では、精力的に県内、全国を駆け巡る。沖縄の反戦平和運動の象徴的存在…。